

平成 2 2 年 ゴールデンウィーク期間中の入込客数について

(観光企画課コメント)

今年のゴールデンウィーク期間中(4月24日～5月5日：12日間)の県内の主要観光施設等の入込客数については、期間中、天候に恵まれたことや高速料金の千円効果があったことなどから、公表有料施設では前年比5.3%の増加となっている。公表施設総計においては前年比0.1%増の356,921人となっている。

県東部の観光施設は、好天に恵まれた影響から、とくしま動物園やあすたむらんど徳島などの屋外施設が増加した反面、大塚国際美術館や阿波十郎兵衛屋敷等の屋内施設で一部減少となった施設もあった。徳島市中心部においては、新たに開催された「マチアソビ」のイベント効果などから前年比22.7%増の眉山ロープウェイを中心に、藍の館、ドイツ館、渦の道などの施設でも増加した。

県西部の観光施設では、石の博物館ラピス大歩危が今年4月に「妖怪屋敷・石の博物館」としてリニューアルし、メディア等でのPR効果もあって昨年より大幅な増加となったほか、吉野川ハイウェイオアシスでも前年を上回っている。

県南部の観光施設では、連続テレビ小説「ウェルかめ」の放送効果が持続しており、昨年より増加し、うみがめ博物館「カレッタ」は前年比63.4%の増加、海中観光船「ブルーマリン」は前年比は前年比18.2%の増加と前年を上回っている。

今年のゴールデンウィークの入込客数については、期間中を通して天候に恵まれたことから、屋外施設が好調である反面、屋内施設がやや減少傾向となった。

さらに、本年6月から本州の高速料金に本四道路の料金が上乘せされるという動きがあることなどから、高速千円が最後となる大型連休に本県を訪れようとする県外客の動きもあり入込客数が増加したと考えている。

また、今年3月末に放送が終了した連続テレビ小説「ウェルかめ」の主要舞台となった県南部を中心に本県の認知度が全国的に上がり、県内外から脚光を浴びたことで、各観光施設への集客につながったのではないかと考えている。